

今週（3月4日から3月8日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週を通して調達ニーズの強い展開となった。日銀当座預金残高は、4日の税・保険料揚げを受けて375兆円前後で推移した。無担保コールO/Nは、税・保険料揚げ要因により、邦銀を中心に調達ニーズが非常に強く、▲0.07～▲0.015%近辺での出会いとなった。無担保コールO/N加重平均レートは、GCレポレートが上昇している事もあり、日を追うごとに上昇する展開となった。7日には複数行から試し取りが+0.001%で行われた事もあり、約1年1ヶ月ぶりに▲0.029%まで上昇した。ターム物は、今積み期間内の調達ニーズは強いものの、オファーが極端に少なく、出会い辛い状況のなか、1W物を中心に▲0.035～▲0.015%近辺で散発的な出会いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは8日に2W物・15,000億円と1日物・20,000億円がオファーされた。2W物は4,781億円（期落ち額4,916億円）と札割れとなった。1日物には応札が無かった。1日物は、無担保コールレートがこのところ上昇していたため、短期金利がプラス圏とならない様、オファーされたと考えられる。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、概ね▲0.035～0%程度のレンジで推移した。週初4日のGC T/Nは▲0.030～▲0.025%程度、5～6日は▲0.035～▲0.025%程度、7日は▲0.030～▲0.020%程度、8日は▲0.030～0%程度で推移した。

SCは個別銘柄では5y136～138、10y334～353、20y165～167、30y59～61、40y10～11等に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、足元GCレートの高止まりや、業者の荷もたれ感の強まりからか、全般的に軟調なマーケットとなった。

5日に実施された短国買入オペは、2,500億円でオファーされた。応札額が12,981億円程度と多く、平均落札利回較差+0.032%、按分落札利回較差+0.031%と、引き続き在庫の積み上がりを反映してか、弱めの結果となった。

7日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.148～▲0.140%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1435%、按分落札利回▲0.1375%とマーケットの慎重姿勢を反映してか、前回債からレートが上昇する結果となった。セカンダリーでは、▲0.141%出会いと堅調に推移した。

8日に実施された3M物の入札はWI取引において▲0.13%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1291%、按分落札利回▲0.1210%と前回債からレートが上昇する結果となった。セカンダリーでは、▲0.12%で少額出会いと閑散小動きであった。

●CP市場

CP発行市場は、ノンバンク・鉄鋼・石油業態等から大型発行が実施されたものの、3月末を控えて調達を調整する企業も目立ち始めた。週間では1兆円強の償還に対して、5,000億円弱の発行にとどまり、償還超となった。その結果、市場残高は、2月下旬の水準から約1兆円減少し、20兆円台前半での推移となった。発行レートは、期内物では投資家・ディーラーの荷もたれ感も強く、0%から若干のプラス圏での決着が中心となる一方、期越物では玉確保ニーズが強く、昨年の3・9月末越えほど深いマイナス水準ではないものの、希少銘柄を中心にマイナス圏での積極的な水準での決着が中心となっている。

CP等買入オペは、5日に事前予定通り3,500億円でオファーされた。今回のオペは期内物中心に応札されるとの観測もあり、レート水準が注目されていたが、平均落札レート0.000%、按分落札レート▲0.006%といずれも前回比（平均0.005%・按分▲0.001%）で低下する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均(円)	新発10年物 国債利回り(%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/4(月)	21,822.04	△0.003	112.00	△0.047	△0.030	3,761,700
3/5(火)	21,726.28	0.000	111.85	△0.042	△0.035	3,763,000
3/6(水)	21,596.81	△0.010	111.77	△0.034	△0.035	3,744,800
3/7(木)	21,456.01	△0.015	111.65	△0.029	△0.033	3,758,800
3/8(金)	21,025.56	△0.038	111.52	△0.027	△0.006	3,753,600

来週（3月11日から3月15日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
3/11 (月)	2月のマネーストック(日銀 8:50)			12月の米企業在庫 1月の米小売売上高
3/12 (火)	1-3月期の法人企業景気予測調査季報(内閣府・財務省共管 8:50) 1月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	5Y 20,000億円 3/13発行		2月の米消費者物価指数
3/13 (水)	1月の機械受注統計(内閣府 8:50) 2月の企業物価指数(日銀 8:50) 1月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)			2月の米生産者物価指数 1月の米耐久財新規受注
3/14 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~)	TB3M 43,400億円 3/18発行	流動性供給 6,000億円 3/15発行	1月の米新築一戸建て販売件数
3/15 (金)	B20東京サミットにて黒田総裁講演 日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30)			2月の米鉱工業生産・設備稼働率 3月のミシガン大消費者信頼感指数速報 2月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/11 (月)	800	▲ 7,900	▲ 7,100	国債買入 全店共通 CP買入 国債補完	▲ 4,900 ▲ 600 200	8,100 4,800	7,600	500	TB3M発行▲43400償還42500 TB6M発行▲22000償還20900
3/12 (火)	1,000	2,000	3,000				0	3,000	
3/13 (水)	0	▲ 23,000	▲ 23,000				0	▲ 23,000	源泉税揚げ 5Y発行▲20000
3/14 (木)	0	2,000	2,000				0	2,000	交付税借入▲10500期日10500
3/15 (金)	▲ 1,000	5,000	4,000	CP買入		3,500	3,500	7,500	流動性供給▲6000 2Y償還10900 個人向け3・5・10Y発行▲5800 個人向け3・5Y償還500
週間合計	800	▲ 21,900	▲ 21,100	—	▲ 5,300	16,400	11,100	▲ 10,000	

3/11は日銀予想、3/12以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、13日に源泉税揚げ・5Y発行による大幅な不足日となる事が見込まれている。無担保コールO/N加重平均レートは、引き続き高い水準で推移する展開が予想される。レボ市場は、今積み期内の取引で▲0.03~0%程度、来積み期に絡む取引で若干のレート低下を予想する。短国市場は、14日に3M物の入札が実施予定となっており、軟調なマーケットの中、落札水準が注目される。CP市場は期越物の発行案件がどの程度膨らんでいくのかが注目される。また、3月で2回目となるCP等買入オペが12日に予定されている。5日のオペの結果を受けて更なるレート低下への期待もある中、レート水準に注目したい。

主要なイベントとしては、国内では14~15日の日銀金融政策決定会合、海外では12日に2月の米国CPIが予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。